

令和5年度 第3回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時：令和5年6月22日（木）

午前9時30分～

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室101

（1）令和5年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について〔非公開〕

（2）白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について
「質疑無し」

（3）白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会（前年度採択団体）

○●（NPO法人 sketch 倶楽部） おはようございます。NPO法人 sketch 倶楽部の事務局の●と申します。食未来まちづくりプロジェクトについて発表させていただきます。

今日お話しする内容はこんな感じなのですが。この事業の目的、それから前年度行われました第3回と第4回の食未来まちづくりプロジェクトの内容、問題点と将来予測、それから食未来まちづくりプロジェクトから生まれたもの、事業の成果、今後の展望などについて、お話しさせていただきたいと思います。

まず、食未来まちづくりプロジェクトとはどんなものかといいますと、食や農に関心のある様々な方々に集まっていただきます。農業や食育の情報、地域への思い、疑問、課題、やりたいことなどを共有して交流するイベントになります。ここでの出会いをきっかけに、新たなアイデアや実現に向かう場にしていただきたいと思います。開催しています。

第3回、昨年6月に行われた食未来まちづくりプロジェクトは、こんな感じなのですが、けれども、まだこのときはコロナ禍だったので、感染対策に神経を使いながらの開催でした。参加者22名、このときには、議員さんが傍聴してくださる方が4名ほどいらっしゃいました。ゲストスピーカーは、ここにある石山靖子さん。農業関連のPRプロデューサーとしてセミナーやイベントを開催していらっしゃる方です。全国を回っている子育てママなのですが。

まず、イベントの最初に、関東学園大学の中村正明教授から、基調講演として、6次産業についてのトークをしていただきます。これは、大学の先生でいらっしゃいますので、こちらに来ていただくことができないので、Zoomを使ってオンラインでトークしていただきました。中村先生は、農業経済学、地域活性化を専攻領域としており、6次産業化の現状や地域活性化の具体的な事例などについて詳しい方なので、そういったことに

ついて現状のお話をさせていただきました。

次に、参加者の自己紹介です。農業関係者はもちろんなのですが、食や教育、一般の主婦の方、企業でまちづくりに関わる方などに参加していただきました。ここで、自己紹介の後にゲストスピーカーからお話を伺いました。子供を育てる目線から、今のことだけではなくて未来を考えて、食育や食の安全性、それから食料の自給率をフォーカスして、今私たちができることについて、20分ほどのお話をいただきました。

その後、休憩時間を取ることにしているんですね。これは非常に大事な交流タイムになりまして、自己紹介が済んで、農業のお話を聞いた後に、参加者の方々が休憩時間と称して交流をします。ここで名刺交換とか、偶然居合わせた実は知っている方とお話が盛り上がりまして、とても場が和やかになります。これはとても大事な時間だと思って私たちも多めに時間を取っています。

そして、休憩時間の後に、場が温まった後に、いよいよここから参加者全員が自分の考え、思い、疑問、課題、それから解決についての交流を深めます。第3回はコロナのこともありましたので、車座でちょっと皆さんの距離を取りながらなのですが、輪になって、それぞれの意見交換をしながら、その意見をまとめるためにファシリテーターの方に意見をまとめていただきながら、付箋に意見をまとめて、それで意見交換をしていくような形になりました。この付箋によって、意見をグループ分けしたりとかしてまとめていただくような形にしました。全体はこんな感じです。1時間ほどの意見交換でこれだけのものが出ました。

第4回は、11月に行われました。ここでは白井市で有機野菜を育てていらっしゃる鴫田三芳さんをお招きして、ゲストスピーカーになっていただきました。このときの参加者は、鴫田さんって結構レジェンドな方みたいなので、この方からお話を伺いたいという方が、農業関係者の方が来て、22名集まりました。

このときも第3回と同じように基調講演として、関東学園大学の中村正明先生に、食と農、まちづくりに関する最新情報をオンラインでお話ししていただきました。そして、第4回も同じように、自己紹介で参加の皆さんの興味のあるものとか、気になったことというのを短く話していただきました。そして、その後、鴫田さんのゲストトークで、白井市で有機農業を始めるきっかけ、それから食の安全にこだわる理由、有機農業の難しさ、農業の経営などについてお話しされました。同じ有機農業を経営するということを目指す方々からは、現実的な非常に鋭い質問もありました。

そして、この日も交流タイムに近い休憩時間を取って、ゲストトークの質問を含めてあちこちでお話が盛り上がり、あっという間に休憩時間が終わってしまいました。そして、その後、今回は、その時は若干コロナのほうが落ち着いていましたので、参加者の皆さんにはグループで集まっていただいて、テーマごとにグループに分かれていただいて、グループでそれぞれの思いや自分自身がやっていること、ゲストトークの話を聞いて思った

ことなどを話していただきました。このときに運営スタッフが各グループを回って、どんな話をしているかというのを把握しまして、そして、その後各グループで話し合った内容をそれぞれ発表していただきました。そして、最後に総括とフォトセッションでイベントは終了する形になります。

この後も参加の皆さんが、会は終わっているのですが、ロビーで交流を深めて立ち話をしながら、新しいイベントのアイデアとか、ミーティング次やりませんかとか、別の方に紹介しますよとか、そういった予定が決まっていきます。運営スタッフに対しては、次回ゲストトークにこんな人を呼んだらどうだろうかとか、次こんなテーマでやってもらえないかみたいな要望も頂いたりしています。

そして、参加者からの感想とか御意見、一部を載せてあるのですが、全体的に見てどういった傾向かという、個人の意欲というのがすごく高まっているんですね。皆さんの意識がとても高まっていることが分かる。そういった感想とか御意見を頂いています。

イベントをする上での課題とその対応策。半分は運営スタッフの愚痴でもあるのですが、まず、オンライン運用の難しさ。Z o o mで、関東学園大学は群馬県なのですが、そちらと繋いでオンライントークをしていただくのですが、当日借りる会場でZ o o mがうまくいくかどうかというのが、一か八かで非常に難しいところなので、早めに会議室を取りまして、何度もテストをするのですが、白井市のW i - F iを使うと、時間に限りがあるものですから、いろいろなセーフティーネットを引いて、練習どおりのことが実際にできるかどうかという非常に難しいところです。

それから、ファシリテーションについて。進行する上で、プログラムはもちろん決まっていますのですが、参加した方から、どれぐらいのお話を引き出せるかとか、あと、引き出すのはいいのですが、一人の方がたくさんしゃべってしまったりとかすると、全員からの意見が引き出せなかったりする場合もあるので、進行する上で、監視をする人とか、ファシリテーターの力量とかが非常に難しいイベントになっています。

それから、運営スタッフの確保。私も運営スタッフとして参加するのですが、もちろん一人の参加者として、トークの内容とかも聞きたいのですが、綿密に進行を作っておかないと、当日のハプニングに対応できないので、お話を聞いている場合ではないということもたくさんあります。

それから最後に、イベントの活性化。また参加したいという方もたくさんいらっしゃいます。ですが、同じ方が何回も参加すると、活性化がなかなか進まないということもありますし、それから新規の参加者を広報活動をして集めていくのも、なかなか難しいことでもあります。なので、年に2回開催するというのを基本にしていますので、今のイベントをやっている時点から、次のイベントのことを考えて、たくさんのお声掛けをしてイベントが活性化するように、それから参加する方が活性するようにというのを努力し

ています。

そして、今回は私たちも、6月29日、来週なのですけれども、牧場セラピストのまつみたえさんという方をお招きして、北海道からお招きして、酪農についてのお話、現状、非常に厳しい状況になっておりますので、酪農についてのお話を聞くことになっています。

次に、食未来のまちづくりプロジェクトから生まれたものを具体的なものを紹介したいと思います。

まず、癒しの空間づくり。これは参加された農業経営者の方、それから不登校の親の会という方々が食未来で出会ったことで、白井の農業経営者の方が不登校を経験した子供たちとその親に癒しの場所を提供してくださいました。御覧のとおり、ニワトリを飼っていたりとか、ヤギを飼っていたりするのですけれども、月に2回ぐらい、この場を提供して、語り合ったりお茶を飲んだり、ニワトリとかヤギの世話をしたり、癒しの場所を提供しています。ここで参加した子供たちが、農業を手伝いたいなみたいなことを言っている子もいました。

次は、新春の茶道体験。これは茶道を教えていらっしゃる方がいらっしゃいまして、白井の白井でやる何か特性のある茶道をやりたいということで、お料理研究家の方も交えて、薯蕷饅頭をお茶菓子にして、お茶会をやったらどうかということで、白井の方に薯蕷饅頭を作っていただいて、それを温めて、お茶菓子として出すような形で実施しています。

では、次に事業の成果です。活動の共有、まず交流の場をつくることで新しいつながり、次につながるものができるということ。それから、参加者がまちづくりへの知識や興味、それから地域活動への高まりというのを感じてくれること。それから一人一人が輝くことで地域が活性していく。みんなを巻き込んで、人がそういうことをつくってくれるということをお大事だと思って、この成果になったなと思っています。

今後の展望としては、さらに人と人をつなげて、それぞれの人々がパワーアップしていただいて、地域の課題を解決していただいたり、交流を深めていただくこと、参加者同士で新たなイベントをつくってくれることを検討しています。

それから、ばらっぱ饅頭とか薯蕷饅頭といった失われかけている地域の資源ですね。こういったものを存続させていたり、またグレードアップさせていくこと、これを将来の展望として考えています。特性のある新しい価値の発見。今回は、プラネタリウムと茶道をコラボしまして、星を見た後に星の話をしながら、お茶を飲んでいただくというのを夏休みに企画しています。

以上が前年度の活動報告となります。どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、残った時間、ちょっと押しているのですけれども、何か御質問とか。審査会ではないので、情報提供とかアドバイスとか、温かい形でやっていただければなと思います。いかがでしょうか。

○●委員 白井国際交流協会の●でございます。

s k e t c h 倶楽部さんのこの活動は、食や農について、在来地域と新住民との間の交流を深めるためのすごくいいテーマだと思いますので、今後ともぜひ続けていただけたらと思います。

質問を2点させていただきます。第3回と第4回を実施されて、参加者がどちらも22名と御説明がありましたが、この数字だけを見ると、メンバーが固定されているようなイメージを持つのですが、対象者が、活動している方と白井市民となっていますので、参加者がどういうふうな状況。3回目、4回目は同じ方だったのか、それとも人が変わっているのか。それと、今後どのくらいの人数を集めることを目標にされているのかをまずお聞きしたいと思います。

○委員長 一問一答で行きましょう。

○●(NPO法人 s k e t c h 倶楽部) 参加者は、たまたま22名同じなのですが、参加している方は違いました。

私たちのほうも、農業関係者の方とかは6月、11月が暇だろうと、閑散期になるので、そういう時期を狙っていたりとか、あと、他地区からも参加する方がいますので、参加している方は違います。

あと、広報活動としてメールを配信したりとか、それからチラシを配ったりとかということをしています。

参加人数に関しては、ある程度、今回もそうなのですから、1週間ぐらい前にどの程度の人数が集まったかによって、開催の仕方というのを変えていかないといけないので、その都度考えている状況です。

○●委員 ありがとうございます。

もう一点なのですが、非常にいいテーマなので、ぜひ、このプロジェクトの成果を一般に公開していただけたらと思うのですが。今の発表でよく分からなかったもので、ぜひ市民向けに公開していただけたらと思っております。これは要望ですけれども。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ファシリテーションの難しさというのをかなり実感されたということでした。この手の取組の場合、ファシリテーターの力量というのが重要だと思いますので、そういったことをトレーニングされていかれるとよろしいかと思うのです。たしか市でも、そういったような取組を準備されていたと思うので、利用されるといいのではないかと思うのですけれども、いかがですか。

○事務局 今年度も実施予定ですので、御紹介をさせていただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。何か最後、一言ありますか。よろしいですか。

○●（NPO法人 sketch 倶楽部） 御清聴ありがとうございました。私たちも手探りでやっております。コロナ禍でなかなか広げることよりも、深めるというほうに重点を置いてきましたけれども、来週の木曜日29日は、少しずつ人数を増やして交流を深める形で実施していきますし、皆さんから継続してきたことの意味というの、最近よくお話をいただいているところですので、今後もこのような形でスキルアップを兼ねて、いろいろやっていきたいと思っております。

以上です。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、お時間になりましたので、NPO法人 sketch 倶楽部さんの発表は以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

○●（ステップ） ステップの代表の●と申します。

我々の団体は、市の補助金をまず活動の初めに促進型というので1回、あと、今もそうなのですが、発展型ということで3回、合計4回頂いていまして、もうこれ以上申し込めないという、今回が最後のこういう機会でございますということを、まず最初に申し上げたいと思います。

これからお話しするのは、委員の方々には資料が行っていると思しますので、その資料に沿ってお話ししたいと思えます。

まず7ページから始まるわけですが、ここで平均点が出ていまして、自立性が低いと、つまり財政的な基盤がないじゃないかと、そのとおりなんです。我々は活動していてもお金が入ってこないのです。場所を使えば、お金は出ていくわけですし、教科書等を買えば、お金が出ていくわけですし、大学生に来てもらえば、謝礼を払うわけですし、隣の駅から通ってくる人がいれば、交通費も払うと。

唯一入ってくるのは、我々はボランティア団体という形で、こういう形で申請するために、会費というのを取っているんですね。年に2,000円。ただで教えていて、会費が2000円だと、中には、会費取るんですか。だったらやめまうと言いますね。入りませんという方がいらして、ちょっと愕然とした部分があるのですが、何しろそんな形で進めている団体です。

中身は学習支援ということなのですが、7ページ目の一番最後に、市の事業との協働による支援というのがありますが、これは最後に行きたいと思っております。

8ページは、我々の活動は年93回。52週で100回ぐらいあるわけですが、年度末、年度始めと、あと夏休みと年末年始、そういったところで。祝日には会場が使えませんが、10回程度はやっていないけれども、あとは、年93回も活動しているというのが8ページに出てくる話です。

9ページ、学習支援をやっているのですが、ほぼ1対1で個別指導をしたいと。一斉授業ではなくてということで。これは受講生が10人前後で、我々教えるほうも10人ちょっと欠けますが、その程度ですと、ほぼ1対1でできるのですが、実は今年度は、受講生が20人ぐらい来ていまして、教える人がちょっと足りなくて、1対1では賄いきれないという現状があるというのも、ついでに申し上げておきます。これは9ページの話です。

10ページは、今、話にありましたように、受講生も我々講師陣も、去年の場合は10名程度でやれたのですがということです。どんなふうに受講生を募集しているかという、書いてあるとおり、市に広報をお願いしています。あと、新聞販売店の広報誌もあって、あと、市の福祉課から年度末3月に、中学新1年生の御家庭に、そしてまた、新年度が始まったら学校を通じて在學生に、こんな学習支援の団体があるよという形でお知らせをいただいていると。また、ここ2年ほどですが、市内4か所の中学校に掲示をしていただいて、こういう団体があるから、希望者はどうぞという形で広報活動はやっています。

10ページの一番下に、補助終了後の展望ということで、いかに外部資金を調達するかのいうのが喫緊のといえますか。今年度は補助金がない中で、生活クラブ生協というところから、これは2回目になるのですが、20万円ほど頂いています。また、今年度は、社会福祉協議会の千葉から、10万円限度のというのがございまして、そこに応募して9万9,000円頂いています。

そんな形で、外部資金が30万円ほどある中で、予算規模が大体11ページにありますように、実際の活動は40万円程度。大きくは会場の使用料。これ実は駅前センターの研修室1、2というのを使っているのですが、半分は市の補助で出ているのですけれども、それでも年間8万円弱のお金がかかります。報償費というのは大学生へのアルバイト代です。時給で換算すると、大体1,000円。1回来ていただくと、3時間ですから3,000円払うと。6時から9時とか、5時から8時という形で。そうすると、フルに年間90回来ると、それだけで27万円ぐらいお金がかかるわけですね。

そのほか、教材、消耗品。実は補助金の対象でないのが、受講生の懇談会というのを年度末に1回やりました。1年間御苦労さまでした。どんな感想ですか、何か感じたことありますか、後輩に残すことありませんかという形で、1万円弱ですけれども、それをやったのが、これは補助金の対象から外れると。補助金の対象から外れたほかの、補助金の対象が40万円使わないと、20万円の補助金が召し上げになるのです。5割しか見てくれませんかというの、我々も3回目のときはそうなんです。

実は、もう一つ、報告書には活動の報告というのが、予算のお金の出入りとかとは別に1枚あったはずなのですが、それが添付されていないのでちょっと残念なのですが。そこには、年間93回やっていますと。受講在籍者が、年度の始めと終わりで9名から13名いますと。参加率は、分母が1,025、在籍数の延べですね。参加者が816。0.796と参加率が8割弱なのですが、これはどうして8割を切ってしまうのかというと、中には火曜日しか来

れませんという方も全部入れるという計算にします。あと学校行事で、修学旅行で、あるいはインフルエンザで、コロナでと、学級閉鎖でというときにも来られないわけなので、それも欠席者に入れているのですね。それで8割という数字なのですが、そういうものをきちんと削除すれば、9割を超える子供たちがきちんと通って学習しているという現状だというふうに我々は理解しています。

また、市内に中学校が5つあるのですが、桜台中学校というのが、実は駅前センターからちょっと遠いんですね。そこから通ってくるのは大変なのですが、それ以外の、地元は南山中学校ですから一番多いのですけれども、七次台中学校あるいは大山口中学校、隣の西白井駅から、そちらのほうから通ってくる子もいて。あと、国道16号線の奥のほうの白井中学校のほうからも来ると。ですから、ある意味で、桜台中学校を除けば、市内全域をカバーしているという中で、1か所でやっているということです。

そんな形で1年間やってきまして。最後に、先ほど言いましたように、市の事業というのが、去年9月、10月からやっているんですね。●という事業者にある意味丸投げして、週1回、何時間かといって、中学3年生を基準にして十数名。ただ、聞くところによると、応募者が募集人数を超えて、つまり、入れなかった子がいるという話も聞いているのです。また、この4月からも、新年度、新しい事業という形で行けば継続でというのですか、やっているはずなのですが、その情報が全然入ってこない。市の予算を使っていますから、決算だ何だといって、議会なり何なりではその議論があるのですが、ほかのところには、どんな形でやっていて、今年度は応募者がどのぐらいいて、どうなっているのかというのは、全然、市民全体に聞こえてこない。我々のほうにも聞こえてこない。そういう中で、連携と言われてもというのが正直なところなのですが。我々も今年は20名になる応募者がいる中で、お金がどうなるのかという中で、今年度あるいは来年度以降も事業を続けたいと思っているのですが、そんな現状ですということで報告を終えたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、質疑応答の時間に入りたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 お疲れさまです。一番最後の市事業との協働連携というのは、私自身も審査の際にすごく注目をしているところでした。現状では、なかなかできていないというようなお話だったのですけれども、これは市の方ですか、どんな状況ですか。連携はなかなか難しいのでしょうか。

○事務局 お答えをします。子育て支援課という部署がございまして、その子育て支援課から私どもが聞いている話だと、年度末に団体が集まった意見交換会みたいなのを開催されたというふうに伺っておりますが、それはやられましたか。

○●(ステップ) 聞かれたことを答えていると思います。そういう会合があったかどうか

かは、書面だけの話かなという気はしますけど。

○事務局 ごめんなさい。確認不足なのですからけれども、そういったようなことをやる、もしくは、やったというような話は子育て支援課から聞いているのと。

あとは、新たなそういった子ども食堂、居場所をつくるような団体に対しての補助制度の創設みたいなものも検討しているというようなことは聞いているところです。

○●（ステップ） よろしいですか。今の市の事業についての話では全然ないですよ。また、意見交換会というのは、学習支援の団体というのは市内ではほぼ我々だけですから、交換も何もないのですよね。類似なことをやっているところはないですから。唯一、市の事業でやっているのは、どういうことなのかというのは全然聞こえてこない。先ほどの会合にも、そういう団体は来ませんから。学習支援団体じゃないですから。企業の事業としてやっているわけですから、そこには関与していないと、そういうのが私の理解です。

○委員長 ですから、事業者を集めたというと、私も大学生のときに塾のバイトとかやりましたけれども、学習塾の関係者が集まったのか、ステップさんのように、民間の非営利活動として学習支援をやっている団体を集めたのかということところは、事実確認は、この場では多分間に合わないの。いずれにせよ●さんの趣旨からすると、どういったこと。

○●委員 子供たちへの学習支援というのは、私も専門が教育学なものですから、非常に重要だし、大事だと思うんですね。去年のお話では、市のほうでもそういった学習支援の活動に力を入れていくということで、これは非常に大事なことだと思います。民間のほうでも、まさにステップさんがこれまでおやりになっていて、これからも継続していきたいという取組があるわけですね。

私の考えとしては、結果的に地元の子供たちに学習支援が手厚くなっていけば良いのではないかと捉えていて、市からアプローチしても、民からアプローチしても、両方共のアプローチがあっていいのだと思うのです。重要なのは、効果的に事業をやっていくためには、その官民両方のアプローチが連携しているということが大事なので、その辺、市のほうの動きもうまく情報公開・共有といいますか、連携策を模索していくことが重要です。民主導の市民協働の枠と市主催事業の取組と連動できたほうが、子供たちにとっては結果的にはいいと思うのです。このようなことを踏まえて、引き続き、双方でこの学習支援事業についても様々連携・協働を試みていくと、事業効果上良くなるかと思えます、いかがでしょうか？

○●（ステップ） 私に言わせれば、連携というよりも情報が欲しいという。どれだけ希望者がいて、どれだけカバーできない子がいて、その人たちはどうなったのかと。我々のほうに来ているという話なのか、でも20人超えるような、我々もキャパいっぱいですから、じゃあこの後どうするのかと。第2会場をつくるなり何なり、そういう団体を新たに設置してもらえるように頼むかとか、そういうことなのですね。

我々にとって一番問題なのは、先ほど御報告ありましたけれども、今年度はお金が入る

見通しはあるのですけれども、来年度以降、お金がどこから入ってくるのかというのが、あちこち応募して、相手に、いいですねと言われたい限り、お金の入ってくる道がないのですが、市のほうは、そういう団体に、自分のところでお金を稼ぎ出すといいですか、生み出す団体ではないわけですから、そういったところには、3回終わったからもうないですよと、それでいいのですかと。それも考えてほしいというので、先ほど検討していますというお話があるのですが。そこなのですね。

以上です。

○委員長 おっしゃりたいことは、私もNPOをやっている身ですから、よく分かります。すみません、ほかの方の発言の機会を。いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ステップさんの活動は、ボランティアに近い形でスタッフの方が本当に献身的に活動されておりまして、頭が下がる思いでございます。

私も駅前センターの英会話教室に通ってしまして、ステップさんが終わりに、コロナでドアを開放しているものですから、大体曜日が合うものですから、帰られるときに、生徒さんと講師の方が帰られて、本当に大変だなと、頑張ってくださいとしか言いようがないのですけれども。少なくともこの駅前センターの使用料は、全額市のほうで何とか見てもらえるように、何とか関係部署に交渉されてみたらどうかと思っております。多分、話を聞いてくれるのではないかなと思っております。

○委員長 どうぞ。

○●(ステップ) 今、半額補助をしていただいているのですけれども、全額はできないのですかという話はしています。そのときに市のほうは、別の会場でもう1回やったらどうですかと。そうすると、週のうちに1回は白井で、もう1回は西白井でとか。学習する人も我々も、それはできませんねという形のやり取りがあるのは一つです。

あと、もう一つ、申し上げていないのですけれども、2回のうちの1回は優先的に取れるのですけれども、もう1回は抽選なのですね。今のところ、活動がコロナ後で活発でないですから、抽選で外れるということはないのですけれども、下手すると、競合する団体があると、抽選から外れて、会場がないということもあり得るのです。という現状だということをついでにお話ししておきます。

○委員長 ありがとうございます。お時間も来ているのであれなのですが、私どものこの市民活動推進委員会としても、せつかくここまで全国的に見てもすばらしい活動をされているので、そういう団体さんが、様々な財政的あるいは活動の場所の制約で何か活動が阻害されるというのは、私たちとしても、とても残念なことです。私たちの委員会としても、ぜひ市のほうにそういったことを善処していただけるように働きかけていただきたいと思っております。

それでは、ステップさんは以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○●（介護・認知症の家族と歩む会・白井） 介護・認知症の家族と歩む会の代表の●と申します。よろしくお願ひします。

私どもの活動は、スタートは認知症の介護をしている家族をどう支えるかというようなスタートをしています。昨年度の活動の90%は、それだと皆さん思うんですよ。全く違うことをやっています。もちろん、正しい知識を皆さんに勉強してくださいという講座、講習会はやらせていただいています。しかし、実際に認知症を知ってほしいということは、講座では身につかないということで、交流会、介護を経験している人もしくは現在介護を行っている人の苦しみを打ち明けようよ、一人で悩むのやめましょうよということで、交流会と称して会場を決めてやっています。

それともう一つは、私どもの狙いが、地域の人が助け合うことでしか認知症の症状が改善することはあり得ないという、ちょっと頑固な私がそう思っているのですけれども。お医者さんでは無理だと、家族じゃないと改善はできないということを皆さん、地域に知ってほしいということで。おかげさまで経験者の中で、じゃあ私ビラ配るわ、はがき出すわということをやっていただけの方がだんだん増えてきました。

私どもの団体も、今年度3年目なので、先ほどの方と一緒に補助金はなくなりますということで、昨年度はいろいろな活動をさせてもらいました。チラシを持って、配ってくるわという人もいるし、身内を助成金とは別に、ほかの団体さんというんですか、紹介をすれば、メンバーは会員制ではありません。講座に参加した人から500円頂くというだけです。

ところが、今年度切れちゃったよという話があつて、切られたら、多くの方が寄附を頂いたり。特に今年度は申し込みが多いのですけれども、若い学生が考えてくれたのが、手渡しはがき。こういう講座やイベントがありますよと郵便で出すことはやめよう。若い連中は、F a c e b o o kだとか何とかで云々、ホームページ云々、意見もありましたけれども、人と人がつながらないPRは何も役に立たないだろうと、若い学生たちが言ってくれた意見と聞いています。

実際には、去年の11月ぐらいからですから、あまり効果は出ませんが、一気に広がりました、あちらこちらから。応援の声も頂いています。そうすると、知らない人から知らない人へ、我々が関係ないところから情報が行くので、極端に言うと、北海道から九州まで、お話聞きたいんですけれども。実際にはなかなか行けませんけれども、地方で10人とか3人とか2人とかのところにお話をさせていただきに行っています。多少交通費頂けるので。

それと、これから継続して地元でやっていく若い人たち、もしくはそういう一つのグループと手を組もうよと。おかげで全く違う分野の人たちと今、去年、手を組めました。先ほどの方が農家の方みたいなお話していますけれども、もっと私どもはスケールが大きくなる。毎年、長野県の白馬村が村全体で応援してくれて、そういうお話をすると、家族

の方が私も畑やってみたいわ、何とかしてみたいわと。認知症と全く関係ないところにつながってきているのです。これが私ども当初狙っていた町会の再生につながっていただろうと思っています。

それと、今、幾つかの大学の若い学生さんが、私たちの授業、じいちゃん、ばあちゃんが何を悩んでいるか知りたいと。授業をやらせていただいたりしています。

それと、一番ネックになってくるのが、活動資金はどうするかと。おかげさまでフリーマーケットですかね、あれに参加させていただけるところが増えてきました。今日はPRも兼ねて、こういうのを作って、私たちの活動を手伝ってくれています。販売させていただいています。これで多少、年間幾らか浮きます。それと、私自身が講師として呼ばれると、多少浮きます。

ここにメンバーがいますけれども、この人も無農薬の野菜を云々。じいちゃん、ばあちゃんたちで昔の食料を作って販売しようよとって、国家試験取って、作って販売できるようになりました。

残念なことに今年でいっぱいです。補助金は出ません。市から言われました。民間の方々が、販売をやっていいよ、場所提供するよと、有名なショッピングセンターが申し出を4か所ぐらい今、来ています。会場費要らないよ、売り上げは自分たちで処理していいよ。これは、いいことか悪いことか分かりませんが、我々がコツコツ、コツコツ、認知症ってお医者さんでは治らないよと言ってきたことが少しずつ伝わっているのかなと。

ここはまだやってもらっていませんけれども、地域包括とかそういうところが、人を集めて勉強会をやってくれよと言って、隣の隣ぐらいは、社会福祉協議会が50人ぐらい集めて、しゃべってお邪魔します。そうすると、そこからまた、おじいちゃんが認知症になったけれどもと、とんでもなく遠いところから連絡が来ます。おかげで、今あちらこちらで販売オクケーというお話を頂いています。

一番困っているのが、若い学生さんたちは、自分の将来があるので興味を持っていただけるのですが、60代の方々が、年金があるからとか言って、あまり関心を示してこられていないのです。介護が必要になって、認知症で施設に入ったら、めちゃくちゃお金がかかるということを宣伝されていないので、これをPRしようよと、町会単位でチラシを持って回ってくれている人もいます。わずか、今、そういうメンバー13人ぐらいです。集まって、自分たちで周りの人に声をかけて、こういう勉強会があるから来ない。認知症と言うと、引くんです。無農薬野菜をこうやって食べたらおいしいよ、庭に生えている野草をこうやって食べたらおいしいよ、病気治るよというような、ちょっとお役に立つお知らせというのを配ったりしているのです。

意外なところから手が生えてきて、その一つ一つが、うちのじいちゃんを引っ張り込んで、畑やっているから、それから、私たちが提案したメダカを飼って、近所の子供さんた

ちにあげて、子供さんとつながっておく。これもメダカ屋さんに言わせると、最近お客さん増えたみたいです。そうすると、子供たちと小学生のお母さんたちが、おじいちゃんが病気だからと言って話が通じるようになる。わずかですけれども。

おかげで今年で補助金はカットですと言われて、いろいろなデパートが売り場つくっていいよと。ただし、そこで認知症ってどんな病気か、しゃべる時間をつくってください。皆さんに分かっていただきたいのです。

私、またひどい認知症に入っています。なぜか台風が来たり、雷が鳴ると、ドンと思考能力がなくなります。そういうお話を畑の中でやると、広がると思います。今まで助成金頂いて頑張ってきたので、補助金ないよと言われて、白井から逃げ出すことはありません。新しいメンバーが昨日も集まってくれました、ここに。こういう活動しようよ。それには、じいちゃん、ばあちゃんが外へ出てこないと駄目だよ。今月もいっぱい出てくると思います。

おかげさまで、今年度は、1年間全部決まっています。来年の3月まで。それにプラスアルファであると思いますけれども、ぜひ皆さんと一緒に歩む会をやって、地域の人に声をかけ合う、わずかな大学生が、はがき配ったらいいじゃんと言ったのがきっかけで、今、何百枚ずつぐらい配っています。ごめんなさい。しゃべりすぎました。

○委員長 よろしいですか、取りあえず。時間もあるので。

それでは、続いて委員からの質疑応答に移りたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ●でございます。私は仕事で老人ホームに勤めておりまして、認知症の方はたくさんいるのですが。

私ごとで申し訳ないのですけれども、今年になり、埼玉に暮らしている母親のほうに認知症だよという診断を受けて、長谷川式で20点を切っているからというようなことをドクターから受けまして、さあ、どうしようみたいな話をしているところなのですが。おかげさまで、両親で住んでおりますので、父親と話をしながら、どうする、多分これから徘徊があったりだとか、買い物に行ってもお金の出し入れができなくなったりとかするけれども、近所の人には、どうするの、言うておくのみたいな話をしてきたことが、つい最近のことなのですが。やはり認知症の方が地域で生活をしていくという中で、地域の住民の方の理解というのが非常に重要なんだろうなと思っております。

質問なのですけれども、講座とか交流会、講座7回、交流会とか相談会4回実施をされているかと思うのですが、このときには、御家族の方の参加が中心だと思いますけれども、認知症御本人の方は、参加をしているのでしょうか。

○●（介護・認知症の家族と歩む会・白井） 80%、私どもの場合は御本人を呼びます。呼びますという言い方はおかしいですけれども。

分かっていただきたいのは、認知症同士だと感じるところが一緒なので、Aさんは犬の

話をしている、Bさんは晩飯の話をしている、合うのですよ。その感性を家族が身につけてくれたら、私どものところで集まるときは、半分以上が御本人です。来たときに、こんにちはと言っただけでも、30分もすると、誰としゃべっているのか分からなくなっているのですけれども、それでも来てくれます。

○●委員 ありがとうございます。心配だったのが、講座に御家族が参加しているときに、御本人さん、どうしているのだろうかと心配ごとがあったのですが、一緒に参加をされているということによかったなと思っています。確かに職場で認知症同士の方がお話をしていますと、本当に和やかなのですよね。私たちが聞いていると、また同じ話をしているとかいうふうに聞くほうがそう思っちゃうのですけれども、認知症の方同士だと、お互いに初めて言うような形でしゃべるし、聞くほうも、初めて言われるように聞くので、お互いに和やかな雰囲気にいる方もたくさんいらっしゃいますから、今後も家族の方の愚痴を言える場所であったりですとか、認知症の方同士のコミュニケーションが取れる場所を継続して行っていただきたいなと思っています。

先ほど来出ている財源のこと、問題があるかと思いますので、この辺は市のほうの協力を仰ぎながらということも視野に入れて、頑張っているっていただきたいなと思っています。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。もう一方ぐらいいけますが、いかがですか。よろしいですか。

そうしましたら、介護・認知症の家族と歩む会・白井さんは以上とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

○●(しろいワクワクひろば) しろいワクワクひろばの事務局の●と申します。よろしくお願ひいたします。●会長と一緒に説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。

しろいワクワクひろばのほうでは、市の補助金を活用させていただきまして、多世代多文化交流型子ども農園・子ども食堂事業ということで実施をさせていただきました。令和4年度の実施状況についての説明になります。

初めに活動地域ですが、子ども農園については、白井第一小学校区内にあります高齢者施設白井の家に近い場所にある畑で行っています。子ども食堂については、その農作業の後に、収穫したお芋や野菜、炊き込み御飯やカレーライスなどのお弁当を配布したり、社会福祉協議会さんや農家さんから寄附していただいたお米や野菜、お菓子などを配布しました。お弁当づくりには、障害者施設のぽけっとさんの調理室をお借りしています。

活動内容ですが、ほぼ月に1回、土日または祝日の午前11時頃から正午頃まで、農作業を行いまして、その後、子ども食堂を行っています。子ども農園・子ども食堂という事業名なのですが、対象は市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、どなたでも御参加

いただいています。

こちらは、令和4年度の活動状況です。9月、10月の落花生、サツマイモ掘りですとか、1月の腹話術、それから3月のジャガイモ植えにたくさんの方々の参加がありました。令和4年度の参加の延べ人数は、お子さんが145人、大人の方が116人、合計261人でした。大体1回当たり20人弱の方の出席になっています。

こちらは、昨年度の収支の状況です。市民団体活動支援補助金の11万5,000円につきましては、野菜やお芋、花の苗、それから食材費、農作業用の軽トラックの賃借料などに活用させていただきました。

昨年度の活動状況について撮影したものになります。こちらは7月のジャガイモ掘りの場面と、当日配布した持ち帰り用のカレーライスのお弁当になります。コロナ禍ということで、以前、コロナ前は、畑でみんなでお食事したりしていたのですが、コロナ禍以降は、主に持ち帰りのお弁当、カレーライスの配布となっています。

こちらは昨年10月に、ブロッコリーの苗植えと、それから落花生、サツマイモ掘りの場面を撮影したものになります。この日には、地域づくりについて学ばれている大学の学生さんと先生も、体験学習の一環で参加してくださいました。

こちらは、今年1月に障害者施設ぽけっとさんをお借りしまして、地域のボランティアさんによる腹話術を披露していただいている場面になります。腹話術の後には、ぽけっとさんのほうで、チキンピラフと野菜たっぷりのスープを参加者の皆さんやボランティアさんと一緒に頂きました。

また、地域の焼き芋屋さんから焼き芋の御寄附も頂きまして、参加者のお子さんたちも大喜びといったような状況でした。

こちらは、今年3月のジャガイモ掘りの場面になります。農作業の後には、健康課の保健師さんの御指導のもと、なし坊体操を皆さんで行っております。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化、過疎化などによる地域の様々な課題があると感じたからになります。白井第一小学校区、在来地区ということで3世帯の同居世帯もあるのですが、その一方で、外国籍の方も含めた若い子育て世帯や、ひとり親家庭の方たちが、近くに親族や知人がいなくて地域から孤立しがちになって、育児の負担から虐待に至ってしまうような可能性もあると聞いています。

また、独り暮らしの高齢者の方や高齢者御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は、心身の機能の低下とともに家に閉じこもりがちとなったり、独居死、老老介護などの問題が起こってくる可能性があるかと聞いています。

私たちは、事業を通じて地域で生活する様々な年代の方たち、様々な国の方たちがお互いに知り合って交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えています。

私たちの事業は、その関わりのきっかけづくりで、定期的で継続的な活動を通じた交流

で、子供たちや若者の健やかな育ちを見守ったり、若い子育て世代を応援したり、また、高齢者の閉じこもりの予防を図っていければなと思っています。地域の様々な人との関わりを通じて、子供たちには自信や意欲を、若いパパ、ママには、一人で頑張り過ぎないように子育ての孤立防止、高齢者の方には、子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして活動している会のママたちは、若さと健康を保っていけるようにと思っています。

こちらは令和5年度の活動予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を実施していく予定です。今年度は、民間の補助金を活用させていただいて、昨年度と同様の内容で実施予定としています。

こちらは協力体制になります。会員を中心として、地域の方々やボランティアさん、自治会、社会福祉協議会さん、それから障害者施設ぽけっとさん、第2ぽけっとさん、市の健康課の方々、また、たくさんの方々の御理解、御協力を得て活動を実施できました。令和4年度の参加のボランティアさんは、延べ96人でした。高校生や大学生、20代の社会人の方々も、楽しみながらボランティアに参加してくださり、大変心強く感じております。

私たちの活動は、微力ではあるのですが、白井市が目指している将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」を実現するためのプロジェクト、若い世代の定住プロジェクトですとか、緑活用プロジェクト、拠点創造プロジェクトの実現に向けた取組の一助になっているのではないかなと感じております。

令和4年度に市の補助金を活用させていただき、また、地域の様々な方々の御理解、御協力によって、多世代多文化交流型の子ども農園・子ども食堂の活動を実施できました。ありがとうございました。

以上となります。

○委員長 ありがとうございました。それでは、委員の方々から質疑応答の時間に入りたいと思います。いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ●です。ありがとうございました。ワクワクひろばさん、今年で終わりで、今年度はもう確保してあるというふうにさっきおっしゃっていたと思うのですが、毎年、それはいろいろなところに申請を出して、お金の元になるようなものという感じでやっていくあれですかね。

○●(しろいワクワクひろば) ありがとうございます。令和4年度で市の補助金が終了ということでしたので、昨年度中に初めて民間の補助金を申請させていただきました。ありがたいことに民間の補助金が決定になりましたので、そちらを今年度活用させていただいて、昨年度と同様の事業を実施していく予定なのですが。来年度は、いずれの団体さんもおっしゃっていたように、来年度、また、その補助金が頂けるかどうか保証がないので、ちょっと不安はありながらというようなところであります。

○●委員 ありがとうございます。うちも、私まんぷく食堂をやっているのですけれども、去年申請が通って、今年度も申請したのですけれども、今年度は駄目だったのです。ということもあって、結局、お金やばい、どこでつくろうかというところで、いろいろなところの申請を見ながらやっているのですけれども、どうしても申請してからもらえるまでに半年以上かかったりするので、市のほうからもいろいろと、こういうところで助成金やっていますよという案内が来たりするのですけれども、ちょこちょこ見ておかないと、予定が本当に立たなくなってしまうので、そこは我々も本当にひしひしと感じているところではあるので、また来年度に向けて、今年度中から早めに動くのが一番いいのかなと思いました。ありがとうございました。

○●(しろいワクワクひろば) ありがとうございます。補助金の情報などありましたら、共有させていただけたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。今日、まちサポさんもお聞きになっているので、助成金情報等は、まちサポさんのほうからもぜひ御案内いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ワクワクひろばさんは、畑を借りて、いろいろ種まきとか収穫されて活動されていて、大変なことをやっていらっしゃるなど感心しております。前回、畑の手入れが大変じゃないですかと質問させていただいたのですが、ボランティアの方に助けていただいて、畑のほうはやっていらっしゃるということで、協力者がいっぱいいらっしゃって、協力者とタイアップしてやっていらっしゃるということで、今後ともぜひ続けていただきたいと思いますが。

私も市民農園をやっています、ここのところ、玉ねぎとニンニクが、なかなか出来が悪いのです。結構いろいろな種類をやっていらっしゃいますが、期待どおり収穫できているのかどうか、参考までにお聞かせいただきたいなと思っているのですが。すみません、こんなことで。

○●(しろいワクワクひろば) 野菜の成長が、ほぼ素人集団でやっているのですが、なかなか思うようにいかない場合もありまして。昨年度、10月に植えたブロッコリーは、途中でうまく育たず、失敗だったかなと。でも、そのほか、お芋類、ジャガイモですとかサツマイモ、落花生、それから玉ねぎ、ニンニクは結構よく育って、昨年植えたニンニク、玉ねぎは、今年の5月にサツマイモの苗植えのときにたくさん収穫できて、参加者の皆さんにも大変喜ばれました。なかなか難しいなと思っています。

○委員長 ほか、いかがですか。よろしいですか。

●さん、何か参加されての感想は。

○●委員 その節は大変お世話になりました。非常によかったのです。まさに先ほどもスライドにもありましたけれども、いろいろな方々を巻き込んでいって展開していくとい

うことを、私ども地域づくりの学部ですけれども、学生たちもすごく実感したようです。何よりも現場には物（地域資源）がありますので。こういった自然資源だったり、人材資源だったり、子供たちだったり。白井の活動に参加すると、まさに子供たちも資源だなど、地域の宝だなど実感しました。ぜひ学生とか若者たちなんかも継続的に巻き込んでいただいて、人的な部分でも事業の継続性を担保していくようなことをしていただければなと思いました。本当に教育効果が非常に高い取組だったなと思っていますので、また遊びに行かせていただければと思っていますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長 それでは、何かありますか、一言。

○●（しろいワクワクひろば） 今日はありがとうございました。

1個付け加えて、●さんが先月ぐらいに、ママさん、参加者さんにアンケートを配布して、結果が出て、少しでも要望を見たいなと思ったので、アンケート調査しました。

アンケートを見て、私が今度やってみたいと思ったことは、子ども食堂、お弁当配布とかに入っている料理の中で、どうやって作るのという、そういう声も多く聞かれたので、今度は料理教室もやってみたいなと思っています。

○委員長 ありがとうございます。地域密着でそういったアンケートを取っていただいて改善に生かすというのも、素晴らしい姿勢だと思います。

それでは、しろいワクワクひろばさんは以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○●（白井健康元気村） 今日は、村長の●が急用で来れません。副村長の●と大蔵大臣の●が出席させていただいております。よろしくお願いいたします。

健康元気村は、本年、補助金を頂戴します最終の年度になります。そのために、昨年はかなり、コロナの件もそろそろいいかなということで随分頑張りましたが、お医者さんを頼んでおる関係上、どうしても完全に実行できなかったという点がございます。そういう点でちょっと反省をしておりますが、ざっと御説明させていただきます。

毎回のことなのですけれども、いつも出させていただいていますWHOの定義の「からだ健康」「こころ健康」「家庭健康」「社会健康」という形の中で、元気村としては、からだ健康と家庭健康、これを講演会をして周知徹底したいというのと、それから心健康については、いろいろと昨年度も御意見を頂きましたが、パークゴルフを少し充実して、体と心ということ。それから親睦旅行については、コロナの関係でやめておりましたけれども、去年は2回できました。

社会健康という点では、基本的には社会参加ということになりますと、講演会に出ていただくことも社会健康になるのですが、元気村のブログの発信によって、皆さんに活動をPRするというところで考えております。

実際に、体健康で行いましたのは、後で計画を御覧いただきますけれども、7月、9月、

10月、11月、4回やりまして、ほぼ平均50人、45人ぐらいのところのお集まりをいただいている。

それから、家庭健康に分類するのが2回、認知症対策、これは白井市の職員の方と、それから実際にこの施設を運用されている方の責任者の方がパネルディスカッション形式で発表していただいて、随分たくさんの方がお見えいただきました。これは効果があったなと感じております。

それから、1月には花粉症とか、いろいろ考えて計画があったのですがけれども、お医者さんの都合で駄目で、どうしても医療ジャーナリストの油井先生を頼んで、人生100年時代の転ばぬ先の杖ということで、健康講座の裏づけみたいなデータをいろいろ並べていただいたので、これもよかったのかなと考えております。

もう一つ、実際には今の二つが補助金対象なのですが、それ以外にパークゴルフ。これは心と体でございますけれども、毎週ではないのですが、月の金曜日を練習日みたいな。そのうちの1回を競技会ということでやりまして、年間196人、延べ参加。

それから旅行については、千葉の勝浦で、これは一部パークゴルフの大会もやりましたけれども。あと奥日光に、これは電車、交通機関を使いましたので、参加が非常に少なかったです。ちょっと費用もかさみました。

あと、ブログについては随時発信しております。白井健康元気村で検索していただければ、いつでも見ていただければと思います。

これが補助金申請のときにお出しした目標で、ざっと見ていただくと、中止が2回ということと、それから、ちょっと色が変わったタイトルのところ、健康教室が2回、PPKと血管血流、これが先生の都合で駄目になっているということでございます。

実際に健康教室の実施について、ざっと御説明させていただきます。告知方法としては、大体80名ちょっとの登録をいただいていますので、はがき、それから一般の公民館にチラシを配りまして、これが最初の漢方です。これについては、今回は、よこお薬局さんの社長なのですが、この方がかなり詳しいデータを頂いて、未病という点で非常に魅力のある講演をしていただきました。それから、健康講座の中で今回は特によかったのが、これは左がはがきで右がチラシで。実際に大きさは、チラシのほうがA4で、左ははがきでございますので違いますけれども、いつまでも健康でいられるお口の話、日本顎咬合学会の理事長さん、黒岩先生にお願いをして、右のような資料を出していただきました。これも後で実物を見ていただければと思いますが、非常に専門的な部分と一部易しい部分といますか、おいしいものをおいしく食べましょう、よく噛むことが脳の活性化につながって、認知症防止にもなるよというようなお話でした。

これは前回、歯の関係で俵木先生に講演してもらったのより、もっと詳しく実際に講演がされたと思います。実際に、これも本当に質問する人が結構出まして、熱心に聞かれたと思います。

次が心臓の話です。これは、そのまちサポの多目的スペースだったので、人数的には37名の方だったのですけれども、非常に興味があるお話で、細かい図を交えながら先生が講演をしていただきました。千葉白井病院の杉山浩二先生という専門の先生です。

続いて、これは実際に、はがき、チラシの告知がないのですけれども、これは急遽題名が変更になったりして、電話で応答したりしましたので資料がないのですが、これも大分お集まりいただきました。40名強ですね。千葉白井病院のリハビリテーション科の理学療法の方が実際に細かい指導をしていただいて、コロナに負けない運動で体を鍛えましょうということで、非常によかったと思います。

それから、終活教室。これは日時が前後しますけれども、これが実際は昨年、令和3年度にやる予定だったのが、都合の関係で延びて1月になったものです。先ほど申し上げたように、ここに書いてありますように。講師の方は、各白井の施設の責任者の方でして、実際の話として非常によかったと思います。これは4月24日のところは張り紙をしてありますので、字が変わっていると思います。日にちが変わって実施しました。

続きまして、油井先生のピンピンコロリなのですが、医療ジャーナリストの方ですから、データ量が非常に多くて、各お医者さんの説明の裏づけみたいのデータが出てきてよかったなと思いますが、こういうふうには長野のピンピンコロリのお地蔵様の件も出てきて、なかなか話上手の先生でよかったと思っております。

その他、補助金対象外なのですが、元気村の活動として、パークゴルフについては、実際にパークゴルフをやっている方がリーフレットを作って、各公民館に配布して、新しい元気村の村民でなくても参加できるということでPRをしております。

それから懇親旅行は、チラシを作って、こんな形で。

あとは公園作業ですね。これは社会参加型になりますから、運動もそれから心のケアもできると思います。これは一応、村民だけが参加しておるということでございます。

時間が参りましたので、以上で発表を終わらせていただきますが、今後の活動を見守っていただければと思っております。よろしく願いいたします。

○委員長 どうもありがとうございました。それでは、ちょっとお時間押しておりますけれども、委員のほうから何か質問、意見等ありましたらお願いします。

●さん、どうぞ。

○●委員 健康元気村さんは、毎回、変わったテーマで講座を開催されておまして、毎回違った先生の方をお願いされていますので、すごい人脈をお持ちで、すばらしいなと思って感心しております。今後もいろいろなテーマで、こういう講座を開催していただけることを期待しております。

それで、今年度の実施内容は、小冊子にまとめて広く市民に配布したとなっております。まちサポにも置いてあるということで帰りに頂いていこうかなと思いますが、これには、どういう内容が記載されておりますでしょうか。

○●（白井健康元気村） すみません、今日、実は大きく聞こえるのを忘れてきましたので、ちょっと聞きづらいので。

○●委員 ここで小冊子にまとめて広く市民に、帰りに頂いていこうと思っているのですが、どういう。

○●（白井健康元気村） 全部ありませんが、一応、認知症と、それから漢方と、それから黒岩先生のいつまでもおいしくと、これは少し残部がありまして、今持ってきておりますので、御必要な方はお持ち帰りください。黒岩先生のは、実はブログに載ってありませんが、認知症、それから漢方、それから油井先生のは、ブログにも全部載せてあります。これは著作権の問題もあって、黒岩先生のほうから止められましたので、一旦アップしましたけれども削除しました。これは、これだけお持ち帰りいただければと思います。あとはブログを見ていただいても、資料はございます。

○委員長 ありがとうございます。ブログに掲載していただけると、いろいろな市民の方も御覧いただけるので、助かると思います。

○●委員 時間も短くもったいないので、手短に率直に、先ほどのお話の中、特にステップさんのお話なんかを踏まえて、一委員の意見ですけれども、発言させてもらえればと思います。

助成事業が終了した後の市とか、まちサポの継続フォローというのが重要ではないかなというのを全体を通じて感じました。具体的にどんなフォローが好ましいのかというのは、ぜひいろいろと御意見頂ければいいのではないかなと思うのですけれども、私は二つぐらいあると思うのですね。

一つは、ステップさんもおっしゃっておられましたけれども、情報提供ですね。継続支援のための、あるいは発展していくための新しいチャレンジのための情報提供というのが官民両面から必要であろうと。その辺は予算がかかるものでもないもので、ぜひ風通しよく、いろいろな情報を提供していくということを市当局の担当課のほうでも意識していただければいいのではないかなと思います。

2点目のフォローなのですけれども、他部局の類似の活動だったり、事業分野があると思うんですね。先ほどの学習支援であれば、ほかの部局で子供福祉とか、そういった部局がありますので、そういった分野と接続することによって、事業の継続性を担保していくということがあるのではないかなと。

私は、昨年度当時、少し想定していたのは、市でも類似の活動が始まるのであれば、ステップさんと協働して行って、ステップのほうにも幾らかの委託的な資金の流れができてくるようになるのかなといったことも想定しておりました。しかし今日のお話では、なかなかその辺の情報交流や流れが、かならずしもスムーズでないようにも見受けられます。担当課のほうもぜひ入っていただいてフォローされると、うまくつながるのではな

いかなという気がしております。避けねばならないのは、市の公的な事業が競合してしま
って、市民活動を阻害するというところで、そのようになってはいけませんので、その辺の
工夫というものが、今後ますます市民活動が育ってくれば育ってくるほど、必要になって
くる段階かなと思いましたので、そんな部分が気づきました。

以上2点が、私が気づいているのですけれども、ぜひ市民団体のほうからも、継続して
いくための継続フォローとして、どんなものが望ましいのか、求められるのかみたいなこ
とも情報発信いただければいいのではないかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。せっかくの機会なので。全部がもちろん実現できるわけ
はないのですが、意見をぜひ。

○●（介護・認知症の家族と歩む会・白井） こういう機会を、いろいろな団体さんがざ
っくばらんに意見交換ができる時間が欲しいですね。というのは、一昨日かな、旅館に呼
ばれてお邪魔したのです。かなり重度の認知症の方がかなり改善していて、彼から出てき
たのが、50歳ぐらいの若い男性が知的障害があるようですので、俺が何とかできないかな
という相談があったのです。

そうしたら、統合失調症で発達障害で家族がみんな困っている。じゃあ一緒に何かやろ
うよと。そしたら断酒会の会長が、俺も仲間に入ると言ってくれたのです。いい結果が出
るかどうかわかりませんが、地域の人がそうやって声をかけ合うって、絶対必要だなとい
うのが一つと。委員の方々も、助成金オーケーだよと出したところの講座なり、イベント
には顔を出してほしいなと思います。

○委員長 ぜひ、そんな宿題でも全然構いませんので。

ステップさん、どうぞ。

○●（ステップ） 先ほども御指摘あったのですけれども、二つの件で。

一つは、我々のボランティア活動が何年かやっていくと、その団体の内部でお金を見つ
ける手段、収益性でも何でもいいのですけれども、会費でも何でもいいのですけれども、それ
で補助金が要らなくなるという制度設計なのですよね。だけれども、どうですか、何年か
やっている、補助金なしでやれるようになれます。というのが一つです。

我々のところはお金は入ってこないですから、最終的に、どこかからお金を引っ張って
こないと続けられないというのが、このボランティア活動の一つの難点というか、特徴と
いうのですか、それですよ。それが一つ。

あともう一つは、我々の場合は、市も協働してという話があるのですけれども、我々が
ステップという名前にしたのは、いずれ市がやって我々の活動が要らなくなると、そのた
めのステップだよと、そういう意味合いがあったのです。ただ、市がやるときには、収入
だなんだと線を引きますよね。ボーダーラインの人とか、急にそうなっちゃった人は、そ

の線の中に入れられないわけです。ですから、そこからこぼれてくる子は必ずいるわけです、家庭が。やっぱりそれはフォローしなくちゃいけないというので、全てが市でできるとは思わないよと。だったら、共存してといたしますか、市で足りない分はやりますよと。その共存の仕方は、お考えくださいというふうに思っているということです。

以上です。

○委員長 すばらしいです。そのとおりだと思いますし、補足させていただくと、いわゆるNPOの資金源というのは、事業型とか、あるいは寄附型とかいうのがあって、事業型というのは、何か事業収入、自主事業をやって参加費をもらうとか、委託金をもらうとかで生計を立てる団体。寄附型というのは、おっしゃるとおりなかなか悩ましいのですけれども、基本的には、寄附とか助成金を集め続けて、それで対価の取れない、例えばホームレスの人たちに、支援するから、お金を頂戴とは言えないわけです。お金がないから困っていらっしゃるわけで。というモデルは、何かしら、それは公的財源かもしれないし、民間、個人からの寄附かもしれないけれども、それをごちゃ混ぜにすると話が混乱してしまうので。

例えば、ステップさんとかは、まさに寄附型モデルでやられているということですから、そこに対しては、何かしら支援をしないと団体さんが成り立たないということなので。それはこの後の議題でもあるのですけれども、補助金制度どうするか問題ということで、我々のほうでもしっかり検討していきたいと思います。

ほか、団体さん、いかがですか。

s k e t c h 倶楽部さん、どうぞ。

○●(NPO法人 s k e t c h 倶楽部) 補助金の活動報告なので、助成金を頂いた活動に関して今回は報告をさせていただきました。しかしながら、私たちは地域活性化だけではなくて、地域共生であったりとか、まちづくりの中にはいろいろな課題を抱えた方々もいて、その方々を巻き込んで一緒にやっている事業がたくさんあるのですね。ですので、私たちがどんな思いで市民活動、団体活動をやっているかというところをもっともっと理解していただく場が必要であろうと。

そして、例えば委託事業であったりとか、私たちも補助金ありきの活動はよくないというのは理解はしていますが、いろいろな実績を上げるためには、やはり補助金が必要。そして、それを広げていく、次の展開に膨らませていくために補助金を使わせていただいています。やはり打ち切りになるとということも想定しなくてはいけないのだなというのは、今日この会に出させていただいて感じたところです。

そうなってくると、やはり地域で起きていることを私たちが肌で感じて活動していることをもっと皆さんにも知っていただく必要があるだろうと。私たちだからできることがあって、それをもう少し継続的にやる必要があるとなれば、そこはコラボレーションであったり、協働であったり、パートナーシップであったり、いろいろな言い方はあると思うの

ですけれども、自団体だけで継続していくのではなくて、コーディネーターとか、それから行政の方々と意見交換をする場であったりとかということ、私たちの強みとか、そういうのをPRする機会が必要ではないかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

元気村さんとかワクワクひろばさんはいかがですか。

○●（白井健康元気村） 元気村の会計を担当しています●です。ちょっと遅れて来ましたが、たけれども。

先ほどステップさんがおっしゃっていましたが、私は入会してまだ2年なので、すけれども、会計担当して、3年間でこの補助が終わると。それがどうやって次やるのかなということが非常に懸念されていて、参加者も御高齢の方が多いものですから、はがきをやめよう、連絡をやめようとかいろいろ考えているのですけれども、やっぱりはがきを頂くと、必ず出たいということで、続けてくれと。それから資料も、もっと白黒でできるだけ安くできる方法を考えろと、会計としては。ただ、やはり御高齢の方なので、一定の大きい文字で、最初は小さかったのですよ、やってくれと。だから、どの程度の御要望をやるかということを知ることが大切なのですが、こういうことで、参加者が凸凹ありますけれども、50人前後が参加している中で、3年でバツと断ち切るというのは、私はちょっと納得というか、もう少し何とかならないのかなと。

私も2年足らずですけれども、結構来ている方は喜んでいただいているのですよね。資料をなくすと、資料も下さいと。うちに帰ったら家内にも見せませうというような話も出ていますし。我々、もう一つ、会員としても、三十五、六人いて、いろいろなテーマで何にでもいいから1か所出てきてくれと。ちょっと補助金とは違いますけれども。結局、市民参加と同じような形で、いろいろ誰でも参加、だから講演会でもいいし、公園清掃というのが我々、活動で主力でやっています。何でもいいから出てきてほしいということもやっていますから、そういうことも含めて、参加しやすい環境に、ぜひ市のほうはしてほしいと思っています。

○委員長 ありがとうございます。

ワクワクひろばさんはいかがですか。

○●（しろいワクワクひろば） 私たちも補助金は、促進型から含めて4年間受けさせていただいて、活動をずっと実施できていたところなのですが、ここで令和4年度で終了ということで、民間の補助金を活用したのですが、申請して今年度は決定だったのですが、来年度以降、また分からないというところで、不安は大きいところです。

今、参加費を1回、お弁当配布のときは、大人が300円、お子さんが100円。お弁当配布のないとき、野菜だけの持ち帰りのときには、1回大人が100円、お子さんが50円ということで実施しているのですが、そういったものも今後、もしかしたら参加料を多く取らせ

ていただくのかということも考えていったほうがいいのかということも思っています。大体年間の参加費の合計が4万円弱ぐらいです。補助金のほうは11万5,000円。ほかに寄附ですとか、会費といったところで運営しています。

先ほどお話があった子育て部門のほうで、子供の居場所づくりのための補助金の制度を検討中ということがあったので、そういったものが新設されるのであれば、そちらのほうも早めに情報提供いただいて、申請とかしていければと思っています。

○委員長 ありがとうございます。

認知症さんは大丈夫ですか。先ほどは。

○●（介護・認知症の家族と歩む会・白井） 皆さん御存じだとは思いますが、コピーって幾らかけていますか。普通10円ですよ。私たちは、けちなメンバーがそろっているんで5円です。普通のお店でやってくれます。使っているはがきは2円です。100円ショップで買ってきています。私どもも補助金切れちゃいますけれども、今、支援してくれているのがイオンさん、それから西友さん、イトーヨーカドーさんだとかが金銭を含めて支援してくれています。人集めをしてくれて、場所をただで貸してくれて、販売していいよ。広告も出してもらったりしています。今年度は私どもは、白井市の広告は何回やっても無料になっています。そういう情報交換ができたらと思うのですよね。

○委員長 ありがとうございます。

そこは、まちサポさん、ぜひ今日出た意見等を踏まえて頑張っていたいただければと思いますし、市との協働というところでいうと、市の担当部署におかれましては、国とかあるいは県の補助金や助成金とか、あと交付金を使った事業とか、今、国はとにかく交付金で何とか施策を推進しようという時代になっているので、様々な交付金がある。私も一応NPO関係はフォローしていますけれども、子供関係だけだって、たくさん交付金制度があるので、交付金制度というのは、概ねNPOが直接申請はできませんから、その基礎自治体さんが交付金に手を挙げてくれないと、結果として地元のNPOにお金が回ってこないという仕組みになっているので、ぜひそういった交付金制度も積極的に手挙げしていただければなと思いました。

それでは、私のタイムキープが悪くて、大分延長してしまっただけですけれども、取りあえず意見交換会のほうは以上とさせていただきます、団体の皆様、本当に今日は平日の朝から御参加いただきまして、ありがとうございました。

（4）アンケート結果について

○委員長 ありがとうございました。アンケート結果につきましては、補助金審査に関わった委員については、空き時間を活用して概要はお聞きしているのですが、全体会では初めての報告となりますので、特に補助金審査に関わっていらっしゃる委員の方々、何か御不明な点とか、クロス集計これからかけていくと思うので、もうちょっとこ

ういった視点で分析してほしいとかがあれば、お伝えいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 問18です。13ページかな。ここで必要あるという回答をした団体のほか、ここに絞った分析をされると、必要あるというところがどういう考えなのかが分かると思いますので、それを一つやっていただけたらと思っております。

○委員長 ありがとうございます。確かに要らないと言う人たちは、それはそれで別に悪くない、それは市民活動の在り方として、ありなのですけれども、必要だという方々、33%の人たちがほかの設問でどう答えているかということですね。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ、●さん。

○●委員 前回もちょっと見させていただいて、高齢化の話とか、結構衝撃的だったなというふうに思っています。今回、5ページの財政規模の先ほどの解釈ですね。そもそもそんなに多くの金額を必要とする団体が、母数として少ないんじゃないかということだったので、この補助金の御趣旨として、促進とか発展ということがありますので、今予算規模が小さいそういう団体を今後もうちょっと規模を大きくだったり、もっと広げてもらうというところがありますから、軽々に、現状、母数が少ないので補助額というのを見直したりとか、数を減らすという、そういう議論ではないかなというふうに思っております。

その点では、先ほどの●さんのお話ではないですけれども、今必要としている団体がどのような意向なのかというのをもうちょっと丁寧に分析が求められると思います。例えば、ケースとしては、より活動を現状の規模からもっと発展していきたい、規模とか範囲を広げたいという、そういう意向の団体があるかもしれないです。その辺なんかも総合的に分析して、そのあたりは丁寧に解釈といいますか、検討する必要があるかなと思えました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。これはデータだけが独り歩きしていくというのがちょっと怖いので、●さんがおっしゃったとおり、今日の意見としては、むしろ正反対の御意見を頂いておりますので。定量的なこういう全ての団体さんに対象にしたものと、実際、申請して、採択されて、実行されている方々との定性的なというか、ここの団体さんから頂いている情報は、ぱっと見、内容としては矛盾していますので。だから、そこを丁寧に解釈していくということは、次回以降、しっかりやっていかなければなと私も思います。ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

●さん、どうぞ。

○●委員 今日もヒアリングを聞いて、今までもずっと思っているのですけれども、補助金の打切り、これをもう一度、根本的に議論したほうがよろしいんじゃないかと私は思っております。

というのは、補助金というのは、よく民間企業なんかでも、いろいろな部分で政府が補助金を与えたりして、3年とか5年とか、あとは一本立ちしてくれと、そういう精神なのですけれども。それは民間企業は、収支が固まったら一本立ちできるのですけれども、この諸団体はほとんど収支が、特に収入ですね。増えるような事業目的ではないわけです。定款に収入を増やすというのはないわけですから。そうすると、そういう人たちの補助金をもらって、これからどうするかという不安感、それから継続できるのかと。私もいろいろ自治会とかやっていると、費用とそれから成り手、この二つの継続というのは非常に心配事なのです。だから、この補助金をあげて、もう一度、例えば3年たったら、こういう条件で何らかの形をやるとか含めて、もう少し寄り添った施策を根本的に考えたほうがいいんじゃないかというのが、この会議をいろいろ聞いて感じていることです。

○委員長 ありがとうございます。非常に重要な指摘だと思いますし、なかなかこれは別に白井市が悪いわけじゃなくて、日本全国、何なら日本政府も、民間の助成財団もすごく悩んでいるところなので。どこかに安直な答えがあって、それをパクってくればいいという話ではなくて、それぞれの、ここは白井市の委員会ですので、白井市モデルとして、どういう姿勢でこの大きな課題に向き合っていくのかというのを皆さんで議論できればと思います。これは本当に悩ましいです。何年までなのか、5年までなのか、10年までなのかというと、一方で、常連さんだけで固まってきちゃうと、新規参入の人が結果として落ちちゃって、この市民活動の新陳代謝が図られないみたいな問題も別で起きてくるので。悩ましいですね。

いかがでしょうか、ほかの方。今日は言いたいことを言う会ですので、まだ意見集約を図る段階ではないので、いいですよ、何でも。

●さん、どうぞ。

○●委員 今日聞いていまして、収入が得られる団体と、この後、自分たちで何とかできるよという団体と、この活動では絶対収入は得られないし出る一方で、人も増えてきて、もっとお金かかるの分かっているという団体とにすごく分かれたなと思ひまして。

特にステップさんみたいな団体さんって、年末の意見交換会は桜台センター参加しておりまして、あの中では、まだ市のほうでは、どういう団体さんに子供たちを任せるかという選定も全然前の段階でして。ただステップさんも呼べずに、一緒にこういうことを続けていってねと言ったのだけがすごく記憶に残ってまして。

ステップさんがやられているボランティア活動の子供たちの人数と、市が今後やろうと思っている人数って、市が子供たちを何とかしようと思っている人数よりも、ステップさんの人数のほうが多かったのです。そこもまた、おかしな話だなと思ひつつ。それもあ

って、ステップさん、もうちょっと頑張ってよみたいない感じではあったのですが。その意見交換会の後、全然情報は流れてきていなくて、本当に●さんに決まったんだねみたいない、そうだったんだみたいない感じもありまして。

例えば、ステップさんみたいないところって、ほぼほぼが会場費、その後、困っているのがお支払い、講師の方のというところで、せめてその会場費をただにできないかなと思っていました。

これ桜台センターが近くにあれば、桜台センターどうぞと言えるのですがけれども、センター自身が指定管理制度なので、それぞれのセンターによって、どうされるかというのが言えないのです。1回は優先で取ってもらえるけれども、1回は外れることもあるみたいないことをおっしゃっていましたので、せめて子育て支援課の委託事業として優先予約で、年間、月2回は部屋を押さえられるようにするということができるはずなのです。地域のスポーツ活動をされている団体にはそれをやっているの、子育て支援ができないわけがないはずなので、何かできないかなと思いました。すみません、感想ですかね。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。さすがの地域密着だからこそその知恵だと思いますので。

ここは、特定の団体がどうこうという話ではないのですけれども、せつかくここまで育てこられた団体さんの事業が、いきなり手放すというのは、さすがに私も忍びないし、申し訳ない気持ちなので。何とか市のほうには、皆さんの部署ではないですが、子育て支援課さんと何か協議をしていただくなり、もちろん、まちサポとか我々からできるアドバイスは、民間助成金、全然取れる能力があられると思うので、その御紹介はできますけれども、市との関係は、こちらからどうこうというお話でもないかもしれないので、そこはぜひ何か前向きな対応をお願いできればと思います。

いかがですか、ほか。よろしいですか。

●さん。

○●委員 1点だけ。今議論になったことを取り組んでいかないと、ちぐはぐ感が出てきちゃうと思うのです。市政全体の中で、市民活動の取組をめぐって。そこは本当にやっていく必要があるというのは、我々も危惧していますし、やっていったほうが良いと思います。

最後1点、もう時間があれなので。先ほど●さんから、ぜひ現場も見てくれと委員のほうに要望というか、要請がありましたので、なるべくやったほうが良いと思っています。我々、いつもこの会議室でこの手の議論をしているのですがけれども、昨年、実際現場に私も訪れてみて、肌感覚で分かることがあります。行って見て、参加して分かる世界もあるので、ぜひ、どこかの委員会の日程で、会議プラス現地視察じゃないですが、日程見ると、そんなことも可能なんじゃないかなという気もしています。小一日というか、ど

こかで確保して、会議プラス現地、現地で会議をやってもいいと思うのです。そのようなことを検討できるといいんじゃないかと。そうすると●さんも、ああ、応えてくれる委員会なんだというふうに思っていただけじゃないかなと思ったのですけれども。すみません、今のは、私の一アイデアです。

○委員長 大事な意見だと思います。例えば、まちサポで何かやるきになると、ちょうどいいのですけれども。多目的ホールでやるきにとかだったらいいのですけれども。